

平成29年度 伊万里市立黒川幼稚園評価結果

1 園教育目標
<p>☆ 『豊かな心を持ち、いきいきと活動する子どもを育成する』</p> <p>☆ 子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく元気な子 ○ みんなと仲良くできる子 ○ 楽しく活動に打ち込める子 <p>☆ 黒川幼稚園スローガン 「友だち大好き！ 先生大好き！ 幼稚園大好き！」</p>
2 本年度の重点目標
<p>(1) 個に応じた支援の計画と実践 …… 一人ひとりのねらいを立て、支援の計画、実践を行う。</p> <p>(2) 豊かな心の醸成 …… 『伊万里っ子しぐさ』の活用、異年齢縦割り保育、家読の推進を図り、豊かな心の育成を目指す。</p> <p>(3) 幼保小連携 …… 保育園、小学校との交流を行い、幼保小の連携を図る。</p>

達成度	A：ほぼ達成できた
	B：概ね達成できた
	C：やや不十分である
	D：不十分である

3 目標・評価							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題	具体的な改善策・向上策
教育活動	○個に応じた指導・援助	・個に応じた支援の充実	・幼児一人ひとりの発達課題の把握と家庭と連携した指導・支援	・個に応じたねらいを立て、支援の計画、実践を図ると共に反省を支援に生かす。 ・家庭訪問、学期毎の懇談会を利用して家庭と連携した取り組みをする。	A	・学期末に一人一人についてまとめ、次の支援に生かした。 ・個人懇談や日々の連絡帳で、園児の様子を伝え、家庭との連携に努めた。	・一人一人に対して、明確なねらいをたてる。 ・登園時に、親に話をして様子を把握し、午前中に連絡帳に目を通す。
	●心づくり	・豊かな心の醸成	○異年齢縦割り保育の実践 ・週1回の園外散歩の実施 ・縦割りグループによる給食の実施 ○読み聞かせ・家読の推進 ・読み聞かせた本の記録や紹介 ・保育室や絵本の部屋の環境整備 ・家庭における読み聞かせ(家読)のため絵本の貸し出しの推進	・全職員共通理解のもとに異年齢縦割り保育に取り組み、内容を工夫する。 ・保護者参加型の保育の取り組みを充実させ、保護者の絵本活動への関心を高める。 ・お勧めの本の紹介や読み聞かせへの参加への働きかけ ・絵本の部屋の開放(14:00~15:00) ・黒川公民館・老人会・町内のお話会との交流 ・家読リレーの実践	A	・計画的に園内交流をしたことで、年少児が進んで年中、年長クラスへ遊びに行く姿が見られた。 ・家読カードに記入してもらい、たくさんの絵本を読んでもらっていた。おすすめの本紹介や感想も書いてもらった。	・集団遊びでなく、好きな遊びで、さらに、楽しく交流できるような遊びを工夫したい。 ・お勧めの本紹介や感想をお便りで他の家庭に知らせ、意識化を図る。
	●健康・体づくり	・外遊びを通じた体力づくりの推進 ・けが、病気予防の指導 ◎食育の充実	・遊びを通して遊ぶ楽しさ、ふれあう喜び、気づくおもしろさを体験させ体力づくりへつなげる。 ・保護者へ感染症の情報発信と予防の対策 ・個に応じた給食指導の徹底(少量完食) ・親子給食会や食育研修会を通して保護者への啓発を図る。	・遊びの環境設定の工夫(気づく、楽しむ、発展する) ・週1回の園外散歩の実施 ・お知らせ黒板を使った感染症の情報を発信すると共に、うがいや手洗いの徹底に努める。 ・ランチルームでの全員揃っての給食の取り組みで、嫌いな物でも少量完食を通して食べる喜びを味あう。 ・学級懇談会や個別懇談会を通して、食の大切さを理解させる。	B	・外遊びは、子どもたちから意欲的に取り組んでいた。 ・散歩は天候などの影響もあり、回数が少なくなった。 ・少量完食で指導を行い、完食できる子どもが増えた。	・今後も教材研究を重ねていくことで、子どもたちの遊びを充実させたい。 ・散歩の回数が増えるような計画の見直しが必要である。 ・給食時間中に、自分で完食ができるように指導していきたい。

園 運 営	●○幼・保・小 連携	・保育園や小学校との連 携の充実及び強化	・隣接した認定こども園や小学校 との交流を深め、小学校との接 続をなめらかにする。	・黒川小学校やたんぼぼ認定こども園との共通理解のもと、年 間計画に基づいた計画的な交流の実施 ・日常的な交流の促進	B	・黒川小学校やたんぼぼ認定 こども園との年間計画に 基づいた交流は実施でき たが、日常的な交流はでき なかった。	・どのような時間に、日常的な交流が可能なのか、 黒川小学校やたんぼぼ認定こども園との話し 合いを行う。
	○危機管理	○食べ物アレルギー等へ の対応	・職員研修会の場を設け、危機管 理マニュアル等の理解を図る。 ・食べものアレルギーの園児を把 握し、家庭と連携を図り、事故 防止に努める。	・危機管理マニュアルを全職員に配布し、職員で内容を確認し あう。 ・給食の献立表をチェックし、園児にアレルギー食材が含まれ るものは食べさせないようにする。	A	・給食センターや保護者と連 絡を取り、アレルギーを持 つ園児にアレルギーの食 材を食べさせないように した。	・職員研修を通して、危機管理における共通理解 を図る。 ・いろいろな場面を想定して、危機管理について さらに取り組んでいきたい。 ・今後も保護者や給食センターと連絡を取り、ア レルギー対策を行っていきたい。

<h4>4 本年度のまとめ・次年度の取り組み</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、異年齢縦割り保育だけでなく、年長と年少、年長と年中、年中と年少のクラスの交流を計画的に取り入れたが、昨年のように早い時期からの「遊びの交流・積極的にかかわろうとする姿」が見られなかったもので、もっと子ども達が遊びに夢中になるような環境構成の場を考えていきたい。 ・家読カードやおすすめの本紹介などの取り組みにより、保護者の家読に対する関心が高まり、親子の触れ合いができた。 ・特別に支援を必要とする子どもの支援の在り方を共通理解し、専門機関等と連携を図りながら組織的に支援を行うことができた。 ・子どもの園での生活や様子をさらに、具体的に園長便りやクラス便り、ホームページ等で知らせる。
--

●は県の共通評価項目 ◎は市の共通評価項目 ○は学校独自評価項目